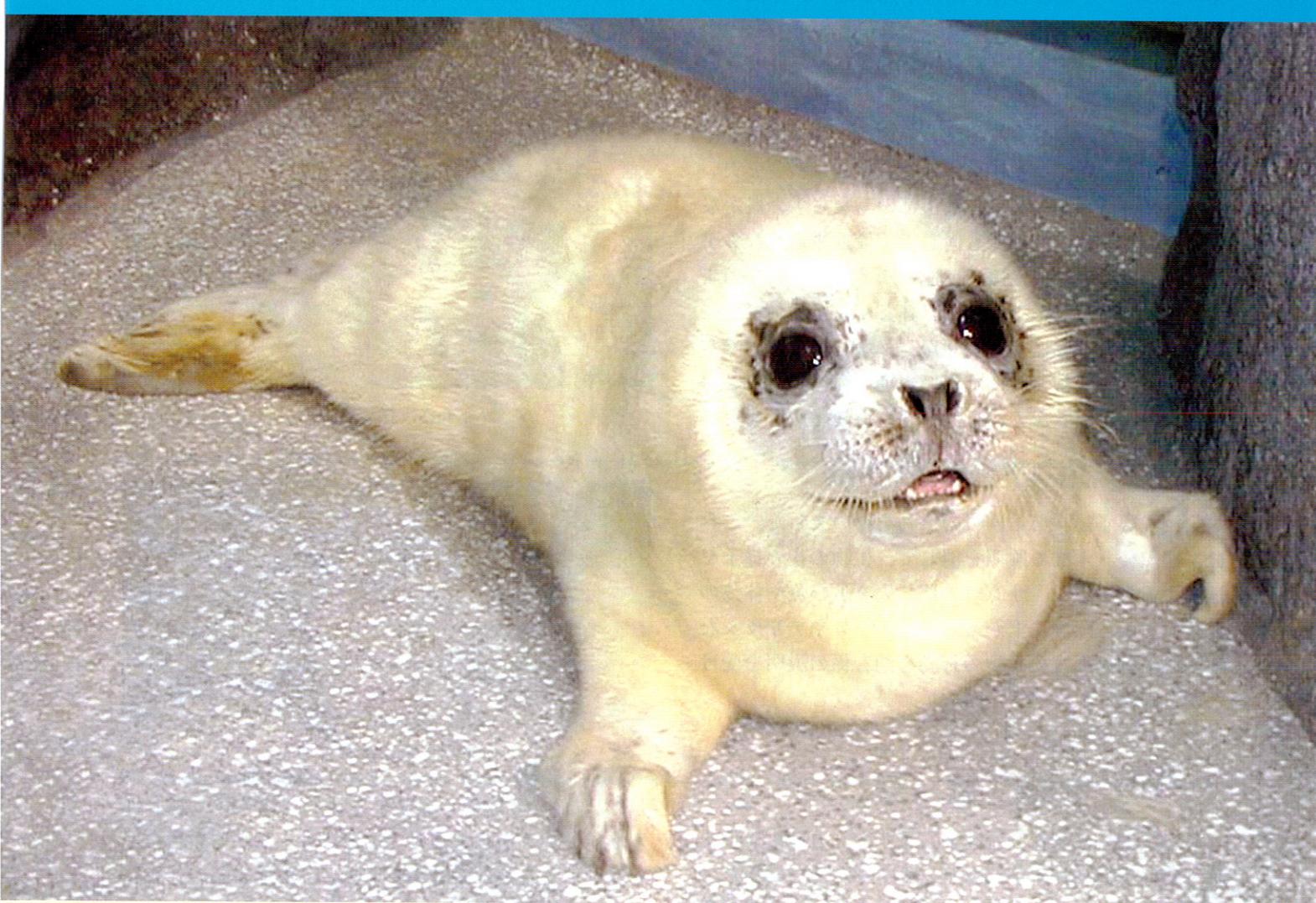


海・川・湖その世界とのふれあい

# マリンスノー MARINE SNOW

No. 22  
2002. 3. 20



● 目次

浅虫水族館 ジュニアクラブ誕生	1	浅虫の海の生物たち(22)	6
ゴマフアザラシ 赤ちゃん誕生	3	浅虫水族館日誌抄録	6
トピックス	4	動物紳士録	7
催し物	5		

# 浅虫水族館ジュニアクラブ誕生

伊藤 達志

水族館や動物園にはどのような役割があるのでしょうか？古くは、珍しい生き物を収集し、展示することが求められていました。現在では、絶滅の恐れのある生物の保護や繁殖などの保護活動と共に、社会教育の場としての機能が強く求められるようになってきました。

かつて、人は豊かな自然に囲まれ、そこに住む野生動物は、とても身近な存在でした。しかし、生息環境の悪化に伴う野生生物の減少により、人はその接点を失いました。子供たちは小川の小魚を追い、野山を走り回って遊ぶ事をしなくなり、それに替わって家の中にこもり、テレビ画面と向き合い、実体験を伴わない仮想現実の世界での遊びに夢中になっています。その結果、子供たちは、自然環境とそこに住む生き物とふれあうことがなくなり、生命の尊さを知る機会を失いました。こうした傾向は、都市部のみならず、豊かな自然環境が残る農村部でも同じで、最近報道される子供たちの問題行動の遠因ではないかともいわれています。身近にあった小川や裏山の林とそこに住む野生生物は取り戻すことはできません。しかし、動物園や水族館では、生き物とのふれあいの場を提供することができます。たくさんの飼育生物を観覧通路からながら

るだけでなく、生き物の世話をするなどの体験をして、直接、生き物とふれあう事により理解を深め、生命の尊さを知る手助けができるのではないでしょうか？

浅虫水族館では、さまざまなプログラムによって生き物に対する理解を深め、生命の尊さを知る機会を増やすことができるよう、子供たちを対象にした体験、学習のクラブ「浅虫水族館ジュニアクラブ」を設立することにしました。初年度である2001年は、小学校4年生から中学校3年生までを対象に参加者を募集したところ、県内各地より56名の申し込みがありました。入校式から始まった1年間の主な活動を紹介します。



入校式



説明を聞く会員たち

## 夜の水族館見学会

入校式終了後、第1回目の活動を行いました。これは、閉館後、水槽の照明を消して、生物の夜の様子を観察するものです。サンゴの間に入り込む魚や体色の変化する魚、陸場に上がって寝るアシカやアザラシなど、昼とは違う夜の生物の行動を飼育係の説明を受けながら観察しました。

## 魚教室

魚類に関する学習会を開催しました。万能投影機を使って陸奥湾の海水中のプランクトンや魚の鱗などの観察や、魚、イカを解剖し、体のつくりについて学びま



万能投影機での観察

した。また、水族館の裏側を見学し、「どのようにして水族館で使う海水を運んでいるのか」、「水槽の水をどうやってきれいにするのか」といった水族館の仕組について学びました。



イカの解剖



## イルカのトレーナー1日体験

イルカの飼育係を体験してもらうもので、参加希望者がもっとも多かったプログラムです。飼育係の1日は、掃除で始まります。子供たちにもブラシを持って、イルカショーのステージを掃除してもらいました。続いて、餌のサバを包丁で調理し、イルカに給餌です。大きな口を開けたイルカを間近で見て、驚いた様子の子が多かったです。イルカの生態と調教について学んだ後、いよいよトレーナーに挑戦です。イルカは、トレーナーのさまざまな体の動きでジャンプなどの演技をするように調教されています。指示の仕方が良くないとイルカは全く演技しません。子供たちは、何度も

か挑戦してイルカが思いどおりにジャンプすると大喜びしていました。



餌の調理



給餌体験



トレーナーに挑戦

## サマースクール

干潟と用水路で生物採集と観察を行いました。午前中は、近くの干潟での採集です。初め、子供たちは二枚貝などの大きなものだけを見つけていましたが、職員に指導されると、ゴカイなどの小さな生き物も見つけられるようになりました。泥をかき分け

て生き物を探すのに夢中になり、お尻が泥だらけになっても気づかない子もいました。午後は、市内の水田の用水路で、タモ網を使っての採集です。たくさんのメダカをすくう子もいれば、水生昆虫やカエルに悲鳴を上げる子もいました。



生物の名前を調べる



干潟での採集



水田での採集

1年間の活動を通じて、子供たちは、何かを感じとってくれたでしょうか？結成初年度を振り返ってみると、反省すべき事が数多くありました。来年度は、もっと有意義なクラブとなるよう、改善していきます。

# ゴマフアザラシ 赤ちゃん誕生

成田秀春

当館では、開館した翌年（1984年）から太平洋岸に漂着したアザラシ類の幼獣を保護して、飼育展示を行ってきました。そして、21世紀が幕を開けたばかりの2001年3月30日、当館で初めてのゴマフアザラシの繁殖をみることができました。

今回お母さんとなったのは、東通村で保護され13歳になったキュウちゃん。そして、お父さんは八戸市で保護された8歳のジュウイチ君です。



生まれた当日

今回の繁殖に係る交尾は確認されていませんでしたが、2000年12月頃キュウちゃんのお腹が膨らみ始めたのに気がつきました。2001年1月中旬になると、日中でも陸上で休むことが多くなり、下腹部の膨らみも一段と目立つようになりました。

アザラシ類は、出産後あまり期間を置かずに翌年の繁殖に向けた結婚シーズンをむかえますが、その時期になるとオスは行動が荒っぽくなります。

展示プールでは、両親の他にも3歳のメス1頭の合計3頭を飼育していましたが、このままでは生まれてくる赤ちゃんが、大人たちの騒動に巻き込まれる危険性があります。飼育係の立場からすれば、母親に別室で出産してもらった方が安全で都合もよいのですが、「多くの方に、生まれたばかりの姿や、育児風景を観察していただく事」が水族館の役割と考え、父親の方を別室に移動したのが3月の上旬でした。母親の様子を見ていると、3月25日から食欲が弱くなり、28日には全く餌を食べません。29日になると泳ごうともせず、陸上でじっとしていました。そして、30日朝7時30分、陸場で眠っている赤ちゃんを確認しました。

生まれたばかりなのに、目を覚ますと陸場を元気に動き回っています。当日のお昼12時頃には、母親が子供を導くようにしてプールに入ると、それを追って、自力で泳ぐ姿を見せてくれました。

泳いだ距離は、せいぜい3～4m、泳ぎ方も力強くはありませんが、必死にあせっている様子も無く見事なものでした。母親を追って上陸するには水面から15cm程の段差があり、ここで多少てこずりましたが、なんとかクリア。元気に泳いでお腹が空いたのか、クークー鳴きながら近づいて行くと、母親はすぐにオッパイを吸い易いようにお腹を向けて授乳を始めました。



授乳中（生後7日目）

生後5日目には「**へその緒**」も無事に取れ、順調に成長しているようでしたが、生後10日目に母乳の吐き戻しが確認されると、授乳の回数や時間が減少し、その日から生後20日目まで見た目の成長は止まってしまいました。体重を量ってみると、9.0kg、女の子でした。そこで強制給餌に切換えると3日後には自力で食べ始め体重も順調に増え始めました。フワフワの幼体毛は生後7日

目に前足と顔周辺から

抜け始め、20日に

は名前通りの、体

にゴマを散らした

模様になりました。

愛称の募集には、1491点もの御応募があり、その中から抽選で西村春香さんの「さくら」を採用させていただきました。



本誌前号掲載アシカ誕生記事と読み比べると、両者の違いが良く解かります。



## ●トピックス

### 希少淡水生物コーナーの新設

♪えびやめだかや、こぶのむれに・・♪童謡「春の小川」のように、かつては人里近くで色々な生物達を見つけることが出来ました。ところが最近では、私達の生活様式の変化が、身近に生息している生物達を絶滅の危機に追い込んでいます。

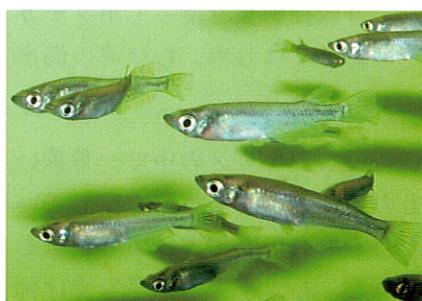


**生態系を破壊する外来魚**

#### オオクチバス

北アメリカ原産で、別名ブラックバスと呼ばれています。獰猛な食性で、日本の在来種を食べるため問題となっています。

水田やため池などの減少や、様々な環境破壊によって生息できる場所が減少しました。そして、ルアーフィッシングの流行とともに各地で密放流されたブラックバスやブルーギルなどの外来魚は、その旺盛な食欲と繁殖力で元々生息していた生物達にダメージを与



**絶滅の恐れのある淡水魚たち**

#### メダカ

北海道を除く日本全土に生息していましたが、水田の減少などの生息環境悪化により、急激に減少しています。

え続けています。このような生態系の破壊は全国各地から報告されており、青森県も例外ではありません。こんな現状を知つてもらうために、生態系を破壊する外来魚を3種類と、絶滅のおそれのある淡水魚のメダカやシナイモツゴなど15種類を平成13年9月から1階フロアに常設展示しました。



#### シナイモツゴ

東北地方の一部にのみ生息。近年、青森市内の生息が確認され、市の文化財に指定し、保護しています。

### 水しぶきに注意!!

いるか館の入口には、ビニール製の雨合羽が掛けてあり、「イルカの尾ビレにご注意下さい。水しぶきをかけられることがあります！」との注意書きがあります。しかし、ほとんどのお客様は雨合羽を手にすることなく、いるか館へ入っていかれます。後で後悔するような事にならなければいいのですが・・・・・・

いるか館では、イルカショーでのデビューを目指す、2頭のバンドウイルカを訓練しています。トレーニングの合間に、好奇心旺盛なイルカたちの遊び道具としてボールを与えました。ところが、水面に浮いたボールはすぐにプールの外へ飛ばされました。そこで中に水を入れ、プールの底

に沈むようにしたのですが、それも尾ビレでたたき、はじき飛ばしてしまいました。水の入った重いボールがお客様に当たると大怪我をするかもしれません。あまりにも危険なのでボールを取り上げたところ、イルカたちは、すぐに別の遊びを見つけました。尾ビレで水面をたたき、お客様に向かって水しぶきを上げ始めたのです。最初は、小さな水しぶきだったのでですが、徐々にその“技”に研ぎをかけ、ついにはお客様に水しぶき



をかける事に成功？したのです。その後、お客様の悲鳴を楽しむかのように、この行動はエスカレートし、今ではプールからジャンプして全身を水面にぶつけ、大量の水を浴びせるという“大技”を身に付けました。

いるか館に入ったときは注意して下さい。イルカが尾ビレを上げているときは要注意、すぐ逃げて下さい。もし、イルカがジャンプしたときは・・・・・・もう手遅れです。



## ●催し物

### 特別展 「青森県の海の生きものたち—春の訪れ—」

北国の長い冬が終わり、4月の中旬ともなれば県内でも桜の花が咲き始めます。海や川の中にも春らしさが現れてきます。そんな春の訪れを告げる水の生き物たちを集めて、特別展「青森県の海の生きものたち—春の訪れ—」をゴー

ルデン・ウィークをはさんだ期間に開催しました。

前年の秋に人工採卵によって生まれたサケの子供たちは、もうすぐ海に下り、長くきびしい回遊生活が始まります。反対に、その生命が燃えつくる前に産卵のために川に上ってきたシロウオたち。他には、カミクラゲ、シャコ、トゲクリガニなどを展示しました。また、万能投影機を使ってホタテガイの幼生をはじめ、むつ湾の海水

中に見られるさまざまなプランクトンたちを解説しました。



### ウミガメ 体重当てクイズ

当館では毎年夏になると、ウミガメたちの健康管理のために、日光浴ができる屋外プールで飼育していますが、そのウミガメたちが館内の水槽に戻される頃、甲羅には海藻がびっしりと生えていきます。そんな甲羅の汚れ落としの際に、ウミガメたちをハカリにかけ、「ウミガメ体重当てクイズ」を実施しました。

12頭のウミガメの中で一番重いものの体重を1kg単位で当てていただくもので、館内に応募用紙を用意し、ハガキでの応募も受け付けました。



測定の結果、体重は「84kg」で、見事ピッタリの体重を予想したのは応募197名中1名のみでした。ピッタリ賞1名と前後賞11名にはそれぞれ賞品をお送りしました。



### 第16回 図画展 及び 第1回 版画展

県内の中学生以下の児童生徒を対象に「海や川にすむ生物及び水族館」をテーマに10月20日から12月28日まで図画展、1月1日から1月31日まで版画展が開催されま

した。特に版画展は第1回目にもかかわらず、848点の応募があり、予想以上の成果をあげることが出来ました。



図画展 知事賞

青森市 福田保育園 4歳  
田村 優弦  
「イルカって大きいなあ」



岩木町立岩木小学校 2年  
大高鉱平  
「たくさんつるぞ」



版画展 金賞

青森市立芦町小学校 3年  
大澤丈人  
「トンネル水槽」



十和田市立北園小学校 4年  
前川慧介  
「魚のトンネル」



～浅虫の海の生物たち～

## (22) ケムシカジカ

*Hemitripterus villosus*

カサゴ目、ケムシカジカ科の海産魚で、全長40cm位になります。石川県以北の日本海および東北地方以北の北太平洋、ベーリング海に分布しています。

体色は茶褐色のものが多いのですが、中にはピンク色に近いものもいます。体中に小突起、コブ、皮弁が多数あり、まるで海藻がついた岩のように見えます。実際、水族館の水槽の中でも、擬岩の上や、くぼみの間でじっとしています。

産卵期は11月から3月頃で、岸近くの浅場に来て産卵します。浅虫海岸にある防波堤の近くでも、大きなケムシカジカが産卵場所を探して泳いでいるの



を見かけることがあります、そんな時には簡単に網でくうことができます。

展示しているケムシカジカのメスのおなかが、どんどん膨らんてきて、もうはち切れんばかりになると、裏の水槽へ移します。それは、展示水槽の中で産卵されると卵の回収が、とてもやっかいだからです。ケムシカジカは一回の産卵でとてもたくさんの卵を産みます。試しに産卵数を数えたら、直径4.5mmの卵が15,000個余りありました。

水槽内でも毎年産卵し、孵化までは順調にいくのですが、ふ化した仔魚たちは餌を食べてくれません。他の種類のふ化仔魚に餌として与えているワムシやブラインシュリンプに全く反応しません。ある人によると「もしかしたらいきなり、他の魚のふ化仔魚を食べるのかも？」とのこと。どなたかご存知の方がいましたら教えて下さい。

## 浅虫水族館日誌抄録

## ●2001年●

- 2. 6 RABテレビ「ズームイン朝」  
ウォーキングバットフィッシュ取材
- 2. 25 イワトビペンギン出張展示
- 3. 13 フンボルトペンギンふ化
- 3. 30 ゴマフアザラシ出産
- 4. 21 NHKラジオ ホシガメ取材
- 4. 27 NHKテレビ ゴマフアザラシ赤ちゃん取材
- 4. 29 イワトビペンギン出張展示
- 5. 24 八景島シーパラダイスよりニセゴイシウツボ搬入  
カリフォルニアアシカ「アンディ」  
マリンピア松島水族館へ搬出
- 6. 2 「夜の水族館見学会」開催 6/9. 16. 23実施
- 6. 13 NHKテレビ 夜の水族館生中継
- 7. 14 室蘭水族館よりトクビレ他搬入  
室蘭水族館へマダイ、クロダイ搬出  
カリフォルニアアシカ出産
- 7. 15 スルメイカ展示～9/25
- 7. 17 松島水族館よりセンネンダイ他搬入
- 7. 20 イワトビペンギン出張展示
- 7. 22 「サマーフェスティバル」開催～8/19
- 7. 23 「水族館裏方見学会」開催  
7/27. 30 8/3. 6. 10実施
- 7. 29 「イルカ教室」開催 8/5. 12実施

- 8. 24 水産指導センターよりシナイモツゴ搬入
- 8. 29 ABA アシカの赤ちゃん取材
- 9. 8 ジュニアクラブ「イルカトレーナー1日体験」開催 10/13 11/10実施
- 9. 14 コツメカワウソ搬入
- 9. 22 「動物愛護フェスティバル」開催  
カリフォルニアアシカ「ハヤト」命名式
- 9. 23 ミニタッチコーナー出張展示
- 9. 30 「海ガメ体重当てクイズ」開催
- 10. 6 「夜の水族館見学会」開催 10/13. 20. 27実施
- 10. 14 ミニタッチコーナー出張展示
- 10. 20 「第16回図画展」開催～12/29
- 12. 8 ジュニアクラブ「魚教室」開催 1/26実施
- 12. 10 ATV「おしゃべりハウス」生中継
- 12. 16 「弦楽四重奏によるクリスマスコンサート」開催
- 12. 24 「ハンドベルによるクリスマスコンサート」開催

## ●2002年●

- 1. 1 「ニューアイヤースペシャル」開催～1/30  
もちつき大会  
イルカと記念写真～1/7. 12. 13. 14実施
- 「第1回版画展」開催～1/31  
フンボルトペンギンふ化
- 1. 3 「ホタテのヨットレース」開催～1/6
- 1. 6 「クイズラリー」開催 1/13. 14. 20. 27実施

## 動物紳士録

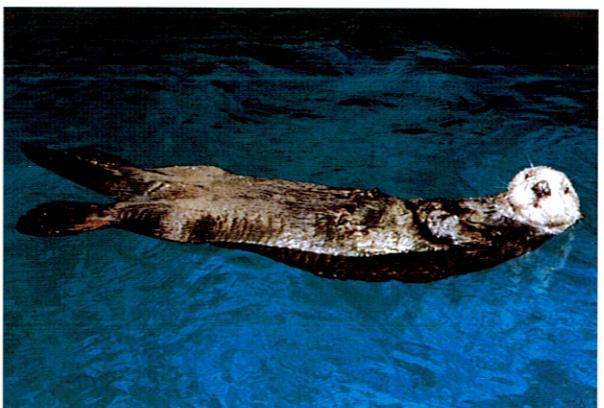
### メガネモチノウオ *Cheilinus undulatus*

暖かいサンゴ礁の海に生息しています。ベラの仲間では最も大型の種類で、成長すると全長2m以上になります。和名は、目の後ろにメガネのつるのような模様があることに由来していますが、一般に知られている「ナポレオンフィッシュ」という愛称は、成長するとおでこのでぱっててくる姿が、フランスの皇帝がかぶっていた帽子に似ていることからきています。



### ラッコ *Enhydra lutris*

イタチ科カワウソ亜科の海獣で、千島列島からアラスカ、カリフォルニアまでの太平洋沿岸に生息しています。イタチ科の中では最も大型で、成長したオスは全長1.4m、体重40kg程になります。皮下の脂肪層がほとんどないので寒さから身を守るためにいつも毛づくろいをしています。さらに体温を維持するため、一日に体重の20~25%もの餌を食べる食いしん坊です。



### 表紙説明 ゴマファザラシの赤ちゃん

浅虫水族館で初めて生まれたゴマファザラシ「さくら」です。

詳しくは本文3ページをご覧下さい。

### マリンスノー No.22

2002年3月発行

(財)青森県企業公社

青森県営浅虫水族館

〒039-3501 青森市浅虫字馬場山1の25

TEL 017-752-3377

FAX 017-752-3379

<http://www.mesh.ne.jp/asamushi/>

E-mail:asamushi@muc.biglobe.ne.jp